

テニュアトラック普及・定着事業 (実施期間：平成 27～31 年度)

実施機関：信州大学（総括責任者：濱田 州博）

(1) 評価結果

総合評価	制度設計 (人材育成策の 方針、理念、機 関のリーダーシ ップを含めて)	進捗状況 (具体的方策、推進体制、成果等を含めて)			今後の進め方 (普及・定着に 向けた今後の進 め方や継続性、 将来展望)
		目標達成状況	公募・選考・ 採用	研究者の育成	
A	a	a	b	a	a

総合評価：A(適切である)

(2) 評価コメント

国際的研究教育拠点の確立のための優れた研究者・教員の確保と育成を目標として、テニュアトラック制を機関の基盤的人事システムとして導入しており、全学的に規程の整備を行った。教員組織として「学術研究院」を設置し、学長がリーダーシップを発揮できる人事体制を整備し、原則として新規採用人事はテニュアトラック制によるものとした。総合工学系研究科を大学院組織とする理学系、工学系、農学系、繊維学系の4学系では多数のテニュアトラック教員を採用しており、これらの理工学4系、及び、世界的な研究拠点の構築を目指す「先鋭領域融合研究群」では積極的な制度定着に向けた努力がなされている。教育経験も重要な育成項目として位置づけたきめ細かな育成環境の中で、テニュアトラック教員の育成が組織的に行われている。地方総合大学での評価のできる取組である。

・**制度設計(人材育成策の方針、理念、機関のリーダーシップを含めて)**：テニュアトラック制を機関の基盤的人事システムと位置づけ、原則として新規採用人事はテニュアトラック制によるものとした。また、教員組織「学術研究院」を設置し、学長がリーダーシップを発揮できる人事体制の整備をしたことは評価できる。

・**目標達成状況**：全学的にテニュアトラック制を導入できるようにするための積極的な努力をしており、平成27年度に全ての未導入学系でも規程を整備した。理学、農学、繊維学の3学系では、全ての新規助教をテニュアトラック教員として採用していることは評価できる。

・**公募・選考・採用**：女性研究者、外国籍研究者を積極的に採用していることは先進的な取組として評価できるが、人事公募に応募者の少ない事例が見られ、改善を期待する。

・**研究者の育成**：複数のメンターによるきめ細かなケアの下、教育経験も含めた組織的な育成が図られており、評価できる。

・**今後の進め方(普及・定着に向けた今後の進め方や継続性、将来展望)**：新規助教人事にテニュアトラック制を取り入れ、理系を中心にテニュアトラック制での人事を実施しており、未導入の全ての学系においてテニュアトラック規程を策定・整備し、継続性のある推進を図っていることは評価できる。